

## まちだ未来の会 第18回学習会

### 鶴川図書館が危ない！

—お年寄りや子どもたちは駅前図書館まで行けません—

日時：2018年12月8日（土） 14：00～16：30

場所：町田市民フォーラム 4階 第1学習室A、B

参加者：16名

はじめに （蘭田）

18回目をむかえた今回は、行動のための学習会にしたい。

#### 1. 鶴川図書館廃止方針の経過と背景 （守谷）

町田市は、6月に「再編計画」を完成。市民からいろいろと意見が寄せられたが、原案を変えることなく、統合計画を着々と進めようとしている。文学館については、今年度中にあり方を決めるとして、指定管理導入の方針を打ち出している。図書館については、10月22日（月）の第5回生涯学習審議会で、「町田市立図書館の在り方見直しについて（案）」という資料が配布されて諮問がなされた。次の11月13日（火）の審議会では、役所側から答申案のイメージも出され、委員長からは「上位計画である再編計画で決まっているから」とのことで、「見直し案」に反対する議論ではなく、実行された際に出来る限り市民の意見を反映する方法を考えたいとの意向が示された。次の審議会は、12月21日（木）。進め方がおかしいと感じた委員も多いが、根幹は変わらないのではないか？

#### 2. 「見直し案」を読んで感じたこと （手嶋）

諮問事項：今後の町田市立図書館のあり方について

1. 図書館の目指すべき姿について
2. 再編を進めるうえでの留意点について

生涯学習審議会への諮問は、集約化対象図書館の方向性について、その是非を問うものではなく、鶴川図書館を鶴川駅前図書館に集約する方向はすでに決まっている。前提を動かすことができないのでは、審議会の存在意義がない。

生涯学習審議会での議論は、わずか3回、計6時間。それで答申を出すことは、審議会の在り方として異常と言わざるを得ない。

（検討の背景）「町田市5カ年計画17-21」（行政経営改革プラン）は、「図書館のあり方の見直し」として、「貸出冊数は減少傾向にあることなどから、効率的・効果的な図書館サービスの提供を検討するとともに、8箇所ある図書館の再編を推進」するとしていたが、2018年6月に策定された「町田市公共施設再編計画」で、図書館は「集約化や複合化・多機能化」などを進めていくことが決定された。

「貸出冊数は減少傾向にあること」の原因を分析することなしに、いきなり「集約化」の方向性を打ち出しているが、貸出冊数の減少の最大の原因は、資料費の激減にある。

（図書館の役割と町田市立図書館の運営理念）町田市立図書館の運営理念（2013年4月）に基づいた図書館運営は、今後も図書館の拡充を要請しているはずである。

（施設の現状）『鶴川図書館と鶴川駅前図書館』の利用圏域の重なりが大きく、「さるびあ図書館

は中央図書館と大きな利用圏域の重複が見られる」ことを根拠に「集約化」を図ろうとしているが、1.5kmの距離は子どもや高齢者にとっては徒歩圏とはならず説得力に欠ける。鶴川図書館と鶴川駅前図書館あるいはさるびあ図書館と中央図書館の間に住んでいる人たちはともかく、そうでない殆どの人たちにとっては、1.5km以上の距離になってしまう。

(全国の中の町田市)「人口40~50万人未満かつ自治体面積100K㎡以下9市(政令指定都市・特別区を除く)」との主要指標の比較を行い、「全てで平均を上回っており上位に位置している」と分析しているが、近隣の多摩地域との比較をすべきである。多摩地域は「市民の図書館」の発祥地としてかつて全国の図書館作りをけん引した地である。経常経費の比較では、自治体によってコンピュータ経費を入れたり入れなかったり様々で単純に比較できない。図書館費用は全体予算の1%必要とされているが、町田市は0.3%に満たず、資料費は、図書館の総経費の20%必要とされる中、十分の一の2%であり、全国の水準に達しているとは言えない。

(利用状況)市立図書館全体の利用状況は、「市民意識調査」によれば「この1年間に利用した市民」は47.3%にも達しており、図書館が市民に定着していることを表している。登録者数は確かに漸減しており、貸し出しが減っていることも含めて原因を究明しなければならない。

個人貸出数の減少は、資料費の大幅な削減が最大の原因である。視聴覚の貸出数の減少も同様である。移動図書館貸出数の減少は少子化と学校週5日制により、児童の利用が減っていることが最大の原因であろう。レファレンス受付件数が減少傾向にあることは、インターネットの普及によるものと考えられるが、地域資料受付件数は増加傾向にある。

(市民のニーズ)「市民意識調査」では、「図書館に期待すること」に「図書の充実」が59.5%と6割弱を占めることから、図書館に対する期待は大きい。「図書館数は今のままでよい」は23.0%、「厳しい財政状況の中でも、図書館の施設や事業は充実し、これまで以上のサービスをうけるようになる」が19.9%あり、現状維持またはそれ以上のサービスを望む声が42.9%にも達している一方、「現在の図書館を減らすのもやむを得ない」という意見は、11.2%にとどまっている。これが民意である。市議会はさるびあ図書館、鶴川図書館の存続を求める請願をそれぞれ全会一致で採択しており、これらを見做すことは決して許されることではない。

(図書館の適正配置の検討)→1.5キロメートルの距離に図書館がない人たちのために、サービス空白地帯をなくすことが先決である。

(施設の老朽化等への対応)鶴川図書館は、URの建てかえ計画に図書館を入れているので、それに対応すれば済む。さるびあ図書館の老朽化への対応も、あまりお金をかけずに改修は可能と市内在住の建築家が断言している。

(貸出冊数減少への対応)何よりも資料費を回復することが求められている。

(めざす姿と運営の基本方針)「町田市立図書館のめざす姿」を「地域の情報拠点として、多くの市民に役立つ図書館」として設定すること自体は間違っていないので、それにふさわしい地域館数、資料費、職員体制を確保することが求められる。

(図書館運営の基本方針)これを保障するには、地域館を増やすことが必要であり、減らすなどものほかである。

(再編検討図書館の方向性)「市民意識調査」では、図書館の現状維持や充実を求める市民が40%を超えている一方、予約した本を受け取ることができるサービスがあればよいという意見もあった

としているが、13.3%しかない意見を42.9%が支持する意見と対等に扱っており、あまりにも偏った扱いと指摘せざるを得ない。

移動図書館については継続していく必要がある。

(第3次日野市立図書館基本計画)最後に、日野市の取り組みを紹介する。第3次日野市立図書館基本計画では、「くらしの中に図書館を本と出あい、人と出会う『知のひろば』が地域の文化を創る」を基本理念とし、さらに5つの基本方針のもとに施策を推進しようとしている。

#### <質疑>

○図書館の比較を多摩地域でしてほしいというのはなぜか？

A・多摩地域では、日野市が1965年9月に移動図書館1台から出発したが、資料費を500万円、翌年は1000万円に増額やして利用者を圧倒的に増やし、府中、町田、調布へ影響を与えた。更にそれが全国に波及した。60年代後半から70年代前半にかけての動き浪江虔氏は「図書館革命」と名付けた。今も多摩地域の水準は高い(町田市はこのなかで資料費は最低)ので、全国的に見て高いのは当たり前になる。

○全国いろんな地域があり、事情が違う。比較するなら、近所ではないか。

○どっちに住もうか考える人にとって、近くの地域との比較に意味があり、より魅力を説明できる。

○「全国の中の町田」の資料は、町田がいいところだけを拾っている。

○近隣の市では、武蔵野市の図書館は、来館者1番多く、資料費が多い。町田は、地の利のせいか2番。しかし資料費は最低。多摩境に図書館を作してほしいという要求がある。子育て世代に移住を呼びかける戦略となるのではないか。

#### 3. 鶴川図書館の現状と廃止問題 スライドを使って。(鈴木)

市民意識調査のデータをみると、鶴川図書館は、小規模であるにもかかわらず、市の図書館のなかでは4番目に多く使われている。また、世代別の統計では、男女とも40代の利用が多く、子育て世代が子どもと共に多く利用していることが読み取れる。貸し出し数の減少については、年報『町田の図書館』の10年間の数字から、資料費の減額との関連がグラフではっきりと読み取れる。駅前図書館開館時に資料費が激減しその後の減少とともにピーク時の三分の一を切ってしまった。

○団地の再生、図書館の存続を願って(鶴川団地商店街事務局長 富岡氏)

団地の建て替えの具体的な計画はまだ決まっていない。センター地区の再構イメージとして、別棟に図書館と郵便局を入れる案がある。太陽の広場は残る。

町づくりでは、人の集まる場所がある。図書館はぜひにほしい。

#### 4. これからの対応—市長あての要望書について(鈴木)

請願をして採択されたが、市の方針は変わらない。これから要望書を出すことを考えている。署名を1月いっぱい集め、2月18日の議会の前には出したい。予定としては2月3日からの週で市の秘書課にアポイントをとり、市長に手渡したい。

3月議会で見直し案の審議がある。

○要望書なので、「新しい住民を見込めますよ」というように入れた方がいいと思う。

○団地の建て替えは、まだ決まっていないし、決まってから使えるまでには14年はかかるだろう。

要望事項に入れるのであれば、「〇〇の建て替えにあわせて」のような記述がいいのか？

○集約化は納得できないこと、近くでないと利用できないこと、資料費を回復させること、建て替えするときの対応を要望したい。

- 団地の再生のために、図書館は必要。図書館を削ってしまうことが、にぎわいや活性化を阻む。
- 署名を集める時、読む文章が長いと困る。わかりやすくしてほしい。
- フォントや、数字で配列を強調する？
- 市長への要望書なので、趣旨をきちんと述べる必要はある。

#### 5. 教育長宛て「公開質問状」について (守谷)

町田市には、昭和 40 年代？に日本図書館協会に委託して作られた図書館施設構想があるが、現在でも有効な公式の施設計画はない。図書館協会の計画は確か 13 館構想。その後、内部的には最低でも 11 館は必要と考えていた。

公開質問状は「配達証明郵便」(\*実際には「特定記録郵便」)で送り、1月16日(\*18日に修正)までに文書回答を求める。このことは、議員、マスコミに趣旨と質問状を送付する。その後、つぎの段階は、教育委員会への請願が考えられる。

#### <参加者による話し合い>

- 生涯学習推進計画 2019-2023 では図書館事業計画は作成しないと書かれている。なぜなのか？  
子ども読書活動推進計画は作成することのこと。
- 生涯学習センター運営協議会では生涯学習推進計画について議論した。
- 運営協議会では教育プラン原案が配られた。
- 生涯学習審議会の進め方については反撃する必要があると思うが、方法は？  
鶴川図書館の問題を取り上げて記録を残させることもいい。
- 傍聴して、言ったことと記録が違っているところがあった。議員は言わないように言い含められているような感じがあった。
- パワーポイントのデータは配って見たらどうか。
- 川崎の文化と図書館を発展させる会の岡本さんより。

同じことが起こっていると感じた。今、宮前区鷺沼駅前開発で、東急が市民館・図書館・区役所がはいるビルを建てる計画があり、2月パブコメ、3月議会で決定する。現在ある宮前の図書館は閉館となる案で、23万人の市民は、全部移転か減図書館は残すかで分断されてしまう恐れがあるが、川崎市はこれ以上図書館は作らない方針。11月29日学習会を行い、次回の学習会には、未来の会のかたが来て話してくれないだろうか？

- 複数で行くようにしたい。

#### 次回の提案 (守谷)

鶴川図書館の問題を現地に近い鶴川文化センター第1会議室で1月26日(土)に行う。

会の前に鶴川図書館に行って、図書館前で署名を集めるなど、行動を考えたい。

#### おわりに (蘭田)

決してあきらめない。